

大学等の国際化・国際競争力の強化のための短期留学の推進について

1 短期留学の意義

〔受入れ〕

大学としての利点

- ・大学の国際的連携・拠点の形成
- ・教育・研究の国際化・活性化
- ・有能な人材の受入れ
- ・人材育成という国際貢献

〔派遣〕

大学としての利点

- ・大学の国際的連携・拠点の形成
- ・教育・研究の国際化・活性化
- ・教育・研究水準の向上

学生の利点

- ・多様な目的に対応した教育・研究の享受
- ・能力向上、世界基準見識の獲得

2 推進の方策

単位互換制度の活用（UMAP が提唱する UCTS の活用）

【UCTS 活用状況】

平成 14 年度活用大学	33 大学
国立大学	12 大学
公立大学	2 大学
私立大学	19 大学

大学による短期留学の奨励

- ・海外の協定大学、海外の受講可能なカリキュラム、留学後の単位認定等の情報提供
- ・一部のカリキュラム・コース等に必須として取り込んだ整備された短期留学の実施

外国人留学生を受入れるための魅力があり、英語による質の高い短期留学プログラム・コースの確立

コンソーシアム形式による多国間、複数大学間の学生交流の推進

【大学コンソーシアム間交流の利点】

- ・大学同士での組織的な協力体制が整備しやすい。
- ・プログラムの国際的認知度が高まりやすい。
- ・交流する学生数の均衡を保ちやすい。
- ・幅広い専攻分野、カリキュラム又はプログラムの提供が可能。

短期留学を支援する奨学金・助成制度の充実

- ・短期留学推進制度
- ・最先端分野学生交流推進制度
- ・先導的留学生交流プログラム支援制度 の拡充

3 今後の展開

大学における短期留学の意義の再認識と大学運営方針に位置づけた制度的な取り組み
システム化したわかりやすい単位互換制度（UCTS 等）の普及

UCTS と ECTS との連携による学生交流の発展

奨学金・助成制度の充実

大学間交流の重要性を合意するための学長等による国際会議、セミナーの実施

サマープログラム等による短期留学の試行取り組み

UMAP (アジア太平洋大学交流機構)

1. 現状等

- (1) UMAP(University Mobility in Asia and the Pacific: アジア太平洋大学交流機構)は、アジア太平洋地域における高等教育機関間の学生・教職員の交流促進を目的として1991年に発足。国際事務局を東京に設置。
- (2) 1998年8月、バンコクで開催されたUMAP総会において、日本が提案した「UMAP憲章」を採択(2001年3月、オーストラリアで開催されたUMAP総会において改正)。
- (3) 現在、加盟各国との連携・協力の下で、UMAP単位互換方式(UCTS: UMAP Credit Transfer Scheme)に基づく単位互換を試行。
(参考)UCTSは、単位の互換方式、成績の評価基準などを定めたもの。
- (4) 2000年1月、神戸にて開催されたUMAP国際理事会にて、我が国より、我が国の大学においてアジア諸国等の将来のリーダーとなる人材の養成を支援するため、「UMAPリーダーズ・プログラム」の創設を提案し、承認。2001年7月から東京外国語大学、九州大学で実施。
- (5) 2000年2月、我が国からの拠出金を基に「UMAP留学生支援信託基金」を創設。アジア・太平洋地域等から新たに渡日し大学等へ入学した私費外国人留学生に対し、円滑な修学を支援するための渡日一時金を支給する事業を実施(2002年3月終了)。
- (6) また2001年4月から、従来(財)日本国際教育協会が実施していた「短期留学推進制度」を継承してUMAP事業として実施するため、我が国からの拠出金を基に「UMAP短期留学推進制度信託基金」を創設。
- (7) さらに2002年10月から、UMAP理事国からの分担金等により、UMAP加盟国の途上国の学生を支援する奨学金事業を創設。

2. 今後の展開

- (1) 加盟各国のUCTS試行への積極的な参加と普及を推進し、アジア・太平洋地域における学生等の交流を促進。
- (2) 将来は、欧州の同様なプログラムであるエラスムス計画との連携・協力なども視野に入れて、グローバルな大学間交流ネットワークが構築されることを期待。

(参考)

UMAP会員の参加対象国・地域(国名はアルファベット順、**UMAP理事国**)

	参加対象国・地域		参加対象国・地域		参加対象国・地域
1	オーストラリア	1 1	日本	2 1	フィリピン
2	ブルネイ	1 2	韓国	2 2	ロシア
3	カンボディア	1 3	ラオス	2 3	サモア
4	カナダ	1 4	マカオ	2 4	シンガポール
5	チリ	1 5	マレーシア	2 5	台湾
6	中国	1 6	メキシコ	2 6	タイ
7	フィジー	1 7	モンゴル	2 7	アメリカ合衆国
8	グアム	1 8	ミャンマー	2 8	ヴィエトナム
9	香港	1 9	ニュージーランド		
10	インドネシア	2 0	パプアニューギニア		

その他の国の参加については、総会の議を経て承認することとなる。

【UCTS 標準換算スケールの計算方法】

外国人留学生を受入れた場合

例；我が国のA大学の場合

A大学工学部建築学科を卒業に必要な単位数：124単位

1年間に取得する平均単位：124単位÷4年間=31単位

1学期に取得する平均単位：31単位÷2学期=15.5単位

A大学受入れ UCTS 単位点：30単位点÷15.5単位 = 1.94単位点

(1単位 = 1.94単位点)

A大学工学部建築学科で1学期中に科目 概論2単位取得

2単位×1.94 UCTS 単位点 = 3.88単位点

成績表記入例

科目名	講義期間	A大学		UCTS	
		評価	単位	評価	単位点
Introduction of	2000/10 ~ 2001/03	良 (B)	2	C	3.88

我が国の大学の学生を派遣した場合

例；我が国のA大学が海外のB大学へ学生を派遣した場合

B大学工学部デザイン学科を卒業に必要な単位数 = 72単位

1年間に取得する平均単位：72単位÷4年間 = 18単位

1学期に取得する平均単位：18単位÷2学期 = 9単位

B大学受入れ UCTS 単位点：30単位点÷9単位 = 3.33単位点

(1単位 = 3.33単位点)

B大学工学部デザイン学科で1学期中に科目 理論1単位取得

1単位×3.33 UCTS 単位点 = 3.33単位点

A大学 UCTS 単位点：1.94単位点

3.33単位点÷1.94単位点 = 1.72単位

A大学工学部建築学科での単位互換例

科目名	講義期間	UCTS		A大学	
		評価	単位点	評価	単位
理論	2000/10 ~ 2001/03	D	3.33	可 (C)	2

【UCTS 評価基準】

	段階	評価	相対基準
1	A	Excellent	10%
2	B	Very Good	25%
3	C	Good	30%
4	D	Satisfactory	25%
5	E	Sufficient	10%
6	Fx	Fail	
7	F	Fail	

注1) UCTS 評価基準は7段階を採用する。

注2) 7段階に一定の相対評価基準を組込む。

注3) FxとFの違いは、単位取得までに要求される学修努力の程度の差を示す。

UCTS 標準換算単位点

4年間 240単位点

1年間 60単位点

1学期 30単位点(セメスター制の場合)

1学期 20単位点(3学期制の場合)

1学期 15単位点(4学期制の場合)

コンソーシアム形式による学生交流

日本・EU留学生交流パイロット・プロジェクト

日EU協力行動計画を踏まえて、高等教育分野における日EU間の将来の実質的かつ長期的な組織協力体制の整ったモデルとなるような多国間の学生交流のプロジェクトを支援。

支援プロジェクト 東京大学（代表大学）、千葉大学、九州大学の工学プログラム派遣 20人（「先導的留学生交流プログラム支援制度」により支援予定）

プロジェクト開始時期 平成14年10月

なお、さらにもう1パイロット・プロジェクトを、同様な内容で今年の3月末に日EU共同で募集、支援する予定。

日仏共同博士課程（コレージュ・ドクトラル・フランコ・ジャポネ）

日仏の大学において、コンソーシアムを構成し、大学院博士課程に在籍する学生に対して、共同で研究指導を行い、日仏間の大学間学術交流を促進。

派遣（年間）30人程度

学生交流開始時期 平成15年9月（仏より学生を受入れ開始）